学校番号	３１０

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅲ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「高校生の美術３」　（日本文教出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・美術を学ぶとは、何が美であるのかを探る行為を通して、物事の本質は何なのかを考えることである。
・作品の良さについては、実際に作品を制作しつつ国内外の様々な作家や作品から幅広く知識や技術を学び、自身の取り組みの意味や喜びを見つけて得た成長の成果とする。表現したいものや表現方法にこだわりを持って制作し、試行錯誤を重ねることで到達するものであり、表現の深さや強さとして表れ、作品の密度や完成度に結び付く。
・鑑賞においては、優れた作品に接して作者の制作意図や時代背景を学ぶことで、作品を見る目を養い、技術面だけでなくより深く表現活動や作品制作の意味を理解するものとする。また、自己の作品制作に求めるものを考える手立てでもある。

2　学習の到達目標

美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。
【知識及び技能】対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができる。
【思考力、判断力、表現力等】造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性を生かして発送し構想を練ったり、事故の価値観を働かせて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	デザイン	「4 色の切り絵ポスター」 ・自分でテーマを考え、テーマに沿った下絵を描く。また、絵のイメージに沿った色の用紙を4枚選ぶ。 ・描いたイラストを、4色の紙の重なりで表現できるように考え、4枚の下描きに分解する。 ・B3のパネルに1番下になる用紙を水張りする。 ・下描きをもとに、重なりを想像しながら3色の紙を順番にカットしていく。 ・すべての紙をカットし、下から順番にスプレーのりで貼り付けて作品を完成させる。	a: 水張りの方法を学び、手際よく美しく張れている。 完成図を想像しながら制作の手順を考えている。 デザインナイフの安全な使い方を理解し、適切に使用できている。 b:限られた色で効果的な表現ができるよう、カットされた紙の重なりを想像しながら下描きを4分解できている。 c:テーマを決定し深めるための資料集めなどを積極的に行っている。	作品	作品	アイデアスケッチ
	鑑賞	「デザインを支える技術」 ・教科書p.28～p.29 を見ながら、作家の創造活動を支える様々な技術があることを知る。 ・それぞれの技術について調調べ、素材や制作の流れ、その技術によって作られるものについてレポートにまとめる。 ・まとめたことを発表する	a：様々な技術に関心を持ち、 積極的、主体的に調べている。 c：調べたことをレポートにまとめ、伝わりやすく工夫して講座の中で発表する。	レポート		発表

2	彫刻・立体	「そっくり目刺し」 ・めざしの観察・スケッチ ・テーマを決め、木の性質を考慮してアイデアスケッチを描く。それぞれの形が上手くかみ合うように、一つ一つのピースの形を考える。 ・電動ノコギリの使い方を学び、安全に使用して、素材を切る。 ・切った素材をサンドペーパーで丁寧に磨く。	a: モチーフを観察し、細密描写する。 b：バルサ材に魚のくびれなどを立体的に写す。 彫刻刀の特性を活かして的確に使用し、安全に木を削りつつ魚の形を忠実に再現する。 c: 課題に対し関心をもち積極的に取り組んでいる。 細部の表現に至るまで、着色も含めて丁寧に追及できている。使用後の掃除をきちんとしている。	アイデアスケッチ	作品	取り組み
3	絵画・版画	「メッセージカード」 ・様々な版を知り、その仕組みを理解する。 ・凸版単色刷りの版づくりの方法を理解しつつ、人に贈って気持ちを伝えるためのメッセージやイラストの図案を描く。 ・図案を版に写し、彫刻刀で彫る。 ・メッセージカードになる紙を準備し、インクをつけて刷る。 ・複数枚刷り、差出人名や宛先を書いて完成させる。	a: 彫刻刀の正しい使い方を学び、安全に作業できている。版の特性を理解して適切に彫り、刷ることができている。 b: 受け取る相手の反応を想像しながら、絵や文字の形や配置を工夫し、気持ちを伝えるための図案づくりができている。彫って表現することを踏まえて図案を工夫している。 c: 版の仕組みに関心を持ち、積極的に取り組んでいる。	作品	アイデアスケッチ	作品

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度